

令和6年度 愛心こども園 事業実績報告

自 令和6年4月 1日

至 令和7年3月31日

事業の総括

はじめに

令和2年4月、愛心保育園から幼保連携型認定こども園、愛心こども園へと名称を変更し、心も新たにスタートしてから丸5年が経ちました。

本年度においては、年度当初に2人の調理職員が同時に体調を崩してしまい、3名配置の調理員が1人になってしまうという最大のピンチに陥りました。

園としても職員の給食をお弁当に変えたり、第2愛心こども園の調理職員の応援も受けながら、併せて職員の募集について保護者様へもご協力をお願いしましたところ、すぐに名乗り出て下さる方がおり、令和7年3月末まで一緒に頑張ってくださいました。その献身的で大きな思いやりの心に深く胸を打たれた年となりました。

又、改めて令和6年度を振り返ってみますと、玉重福社会にとりましても大きな事業がありました。これ迄園児送迎用及び職員駐車場として借用しておりました向かいの土地が売りに出されたことに伴い、園として早急に代わりになる土地が必要となりました。そのような折り、幸運にも園隣接地の売却のお話があり、その購入に向け、那覇市や税務署との事前協議などを経て、理事会や評議員会においても何度も話し合いを持ちながら、土地購入の承認をいただきました。そして積立金の取り崩しを行い、お陰様で無事に土地の購入並びに整備をすることができました。ここに、深い感謝の思いを込めて、ご報告いたします。

そして令和5年度より「子ども主体」「こども真ん中」という教育・保育を掲げ、本格的に取り組んでいるところです。しかしながら、昭和58年の創立当初より行ってきた一斉保育を変えていく事は、容易な事ではなく、令和6年度も様々な試行錯誤を繰り返しながら、職員間でも勉強会や園外研修、他園の見学などを通して、「子ども主体」とは何かを勉強し、話し合いを重ね、保護者の皆様へもご理解とご協力をいただきながら、1年目よりは2年目という事で、少しずつではありますが前へと進むことができました。

令和7年度も子どもたちの人権を尊重し、子どもたち1人1人が持っている素晴らしい可能性と個性を沢山引き出せるよう、職員一同、力を併せて頑張っていきたいと思えます。

令和6年度 第2 愛心こども園 事業実績報告

自 令和6年4月1日

至 令和7年3月31日

事業の総括

玉重福祉会の基本理念である「思いやり保育」～手伝う・励ます・ありがとう～の心を基本に据えて、「保育は愛なり 愛は力なり」という保育理念のもと、100名の2号、3号認定児と15名の1号認定児の総勢115名子どもたちと共に、地域の子育てセンターとして、常に子どもや保護者の視点に立った、温もりのある保育実践を職員一同、精一杯行っていました。更に園生活や教育保育の内容、各行事の面でもいろいろと工夫しながら実施することができました。

そして、今年度も当園の特色である漢字遊び、英語で遊ぼう、体育遊び、お習字、食育活動及び季節の行事等、「子ども主体」の活動内容を職員が試行錯誤しながら実施したことで、子ども達の経験の場が増え、多くの保護者様にも喜んで頂きました。

【職員の資質向上について】

各研修においては、オンライン研修が主流でしたが、会場に出向く機会も増えて、各職員が積極的に受講し、学びを深めることができました。

またキャリアパスの研修においては、9名の職員が各分野の研修を意欲的に受講し、各リーダーをはじめ職員が専門性を発揮しながら、子ども達のより良い成長のために、保護者支援にも奮闘し、子どもの最善の利益を基本に保育教諭という高い使命感のもと、日々の教育保育に力を尽くすことができました。

更に、園内勉強会においても保護者様のご協力をのもと、毎月第2土曜日の午後から行い、園外研修の報告やマニュアルの読み合わせをはじめ、救急法の実践や子ども主体の保育等、毎月テーマを掲げて取り組み、職員の主体的な学びに繋がったと思います。

【チューター制度・その他について】

取り組みを始めてから10年目となる“チューター制度”については、職員マネジメントリーダーの役割を担う職員が、パートナー決定や時間調整等を行い実施し、新任職員が安心して働けるような環境の一助になったと思っております。

更にその他、安全管理、環境整備についても事業計画通り進めることができ、各職員で分担し丁寧に行うことができましたことをありがたく思っております。

【おわりに】

令和6年度も地域に根差した児童福祉施設としての使命を果たせるよう、職員一同福祉の心をもって、子どもたちとそこそご家族のより一層の幸せを願って、日々努めてまいりました。おかげ様で無事に令和6年度を終えることができましたことに、心より感謝申し上げます、事業実績報告と致します。